

1. 重点課題に対する取り組みについて

(1) 慈愛の保育の推進

①外部環境

保育には不易と流行がある。保育材料は、より子どもの興味関心を喚起するもの・より子どもの行動に沿ったものへ進歩してきた。また、保育技術はこども研究の進歩から対応の仕方は変わってきている面も出てきている。また、昨今の子どもを取り巻く環境から不適切な保育の問題や児童虐待の問題などの報道が絶えない年でもあった。

こういう現状にあって、慈愛の保育の心は不易であることを肝に命じ、時代が変わっても守り続けなければならない点であると考え保育に当たってきた。

②重点課題に対する取り組み

・「医療の原点は慈愛である」「福祉の原点は慈愛である」「保育の原点は慈愛である」ことを園経営の中核に据えて取り組んだ。

・日々の研鑽を積み重ね、慈愛の保育を実践してきた。

・園内研修の充実を図り、一人ひとりの保育の資質や専門性を高めてきた。

ア 講師招聘による研修を実施した。

(ア) 社会人としての資質向上の研修の実施

人権保育、普通救急講習、睡眠セミナー

(イ) 実践的保育力の向上に資する研修の実施

保育を実際にやって見せる講師、アプローチカリキュラムの実践者、絵画指導者、健やかな心と体を育む運動遊びの実践、食事の事故防止、インクルーシブ保育等

イ リモートによる研修を用意した。

300講座を要するデザイン研究所のOn-line研修システムによる個人研修の推進は出来なかった。

・慈愛の保育の実践をまとめ冊子にした。

(2) コロナ禍における保育内容・地域との連携の進め方を研究する

①外部環境

3年続く新型コロナウイルス感染症の防止を踏まえた生活様式になり、保育環境も大きく変化してきている。また、第2次中長期計画の「慈愛の心で人と地域をつなぐ」という経営理念に沿う活動等が実施できない心配があったが1部を除き実践を重ねてきた。従って、コロナの感染状況を見ながら、園外保育の実施時期を変更したりするなど工夫をした。本園は交流の体制を作っていたが、慈愛の郷や架け橋との交流が不十分であった。

地域との交流は出来てきた。R4卒園生との交流、中学校との交流等が実施できた。新しい試みとして、半成人式を実施し保護者や卒園生に喜ばれた。更に、新しく近くの久木田学園でミカン狩り体験や肩たたき体験等の保育もおこなった。地域の施設・人材の活用につながった。

② 重点課題に対する取り組み

- ・コロナウイルス感染防止対策の徹底を図った。
- ・柔軟な保育計画の実施
- ・ユーチューブ、リモート、ICT、DVD等の活用をした。
- ・保育のねらいによる代替保育の実施（ミカン狩り）
 - ア 行事等の地域の施設との交流
 - イ 記録したDVDの送付、手紙やプレゼント、作品送付、動画の活用

（3）発達障害等のある児童に対する支援体制を作る

①外部環境

発達障害といわれる様々な特性を持ち、集団生活の中で困り感を持つ子どもたちが増えている。本園でも、令和元年度から令和4年度まで療育機関を利用している園児は平均15%程度、その他気になる子どもは平均6%程度おり発達相談を受けたりしている。入園前に保健センターの健診等で発達の偏りがわかり、サポートしているケースや、入園時の面談や集団生活の中で気付き、相談を勧めていくケース等などがある。いずれにしても、子どもの特性を理解し、その子に合った関わりや環境を整えていくことが求められた。

②重点課題に対する取り組み

- ・臨床心理士の訪問指導、療育機関との連携を深め、子どもの発達や特性を理解し、適切な関わりや手立て、生活環境の調整を通して、個々の発達や成長を支援していく。
- ・臨床心理士等における発達障害やカウンセリングのスキルに関する園内研修の実施（志学館大学から講師招聘した）
- ・保護者の抱える悩みや不安に向き合い、支援していく相談やケース会議による職員みんなで子どもの姿を共通理解する支援体制を作った。

（4）働きやすい職場づくり

①外部環境

近年、保育の質の向上や、保育園の地域での役割の多様化、コロナ禍による仕事量の増加、保護者対応や気になる子どもの対応など、保育士の業務も複雑、多様化している。また、社会問題として保育士不足や他業種と比べて給与面や社会的地位の低さも問題視され、改善が求められている。そうした中で、保育園で働く職員の精神的な負担も増えていると感じ、職員が働く環境を改めて見直し、改善を図ること等の基本的なことを大切にしていけることが、保育の質の確保や安定した施設運営、人材確保になると考えた。

②重点課題に対する取り組み

（ア）働く職員が、気軽に相談できる雰囲気を作り、日頃のコミュニケーションを大切にすること、職員の考えや悩み、不満を理解し、解決できるようにする。具体的には、職員との面談を実施するとともに、要望のある職員とは随時面談を重ね、職員の意見を傾聴し経営に活かしていった。また、保護者の意見要望に耳を傾け、信頼関係を築き保育園への信頼を高めることで、働きやすい職場づくりの一助とした。

(イ) これまで、業務内容の見直し、ICT化、超過勤務の改善など取り組んできている。一昨年からのコロナ禍において保育園の在り方、行事の在り方も再考して、自分たちの仕事に責任とやりがいを持てるようにした。きずな保育園ランドデザイン基に「慈愛の保育」を推進し、園の業務、保育士の業務を明確にする園務分掌を基に機能化を図った。

(ウ) 保育の質の向上のために、キャリアアップ研修をはじめ、外部研修への参加ができた。300以上の講座を持つオンライン研修が勤務時間内ではなかなか難しかった。また、社会人としての研修、実践的指導力をつける研修に取り組んだ。

また、職員の気持ちを原点である「慈愛の保育」に向けることと保育目標等を見直し園の目指す方向性をはっきりさせるため、きずな保育園ランドデザインを作成し2年目になる。職員体制を、園分掌を作成し機能化を図ろうとしたが、難しい面があった。

2. 事業所の取り組み

(1) 年齢別在籍児童数

(年平均人数) 定員 60名

年齢 性別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男児	3人	6人	8人	5.5人	10人	5人	37.5人
女児	4.5人	6人	7.2人	9.2人	5人	10人	41.9人
計	7.5人	12人	15.2人	14.7人	15人	15人	79.4人
	(2.5)人	(16)人	(13.7)人	(14)人	(14.6)人	(13.7)人	(74.5)人
割合	9.5%	15.1%	19.1%	18.5%	18.9%	18.9%	100%

()は前年度実績

※5年連続して20%超えない範囲で、保育士数や保育室の認可された面積の条件内で、児童を受け入れることができる。

(0歳児の月別在籍数)

月 性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	1人	2人	2人	2人	2人	3人	4人	4人	4人	4人	4人	4人	36人
女児	3人	4人	4人	4人	4人	5人	5人	5人	5人	5人	5人	5人	54人
計	4人	6人	6人	6人	6人	8人	9人	9人	9人	9人	9人	9人	90人
	(1)人	(1)人	(2)人	(2)人	(2)人	(2)人	(2)人	(2)人	(4)人	(4)人	(4)人	(4)人	(30)人

()は前年度実績

(年間延べ人数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
R4年度	30人	192人	164人	168人	175人	164人	893人
R5年度	90人	144人	182人	176人	180人	180人	952人
前年比	+60人	-48人	+18人	+8人	+5人	+6人	+59人
	300%	75%	111%	104.8%	102.9%	109.8%	106.6%

(2) 保育事業

	保育計画	実践	反省・課題
0歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携をとりながら、保育士との個別的なふれあいに配慮し、依存的要求を満たし情緒の安定を図る ・一人一人の子どもの生活リズムを大事にしながら生理的欲求を満たし、安全で清潔な環境の中、健康に過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生活リズムと発達に合わせた生活ができるように努めた。 ・子どもの発達や個性に合わせた空間づくりを工夫して、のびのびと遊べるように、安全な環境づくりをした。 ・保護者との連絡や相談を密にして、健康面や子育ての悩みに寄り添うようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低月齢児の保育について、家庭と十分に連携を取り無理のないように努めた。 ・子どもの成長に合わせて室内の環境を変化させることで、個々に合った遊びや生活ができ、落ち着いて過ごせた。 ・保護者との信頼関係作りを丁寧に行い、子育てに寄り添うことができた。
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い、体を動かすことを楽しむ。 ・周知の物事を知ろうとする芽生えを養い、ことばの習得を助ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月齢や経験を考慮したグループ分けや、保育士の配置、室内の環境の見直しをした。 ・興味や関心を引き出すような言葉かけ、環境づくりを心掛けた。(玩具の選び方、補充等) ・戸外遊びや散歩を通して自然に親しむ機会を多く取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループ分けや0歳児と合同にすることにより、ゆとりや異年齢の関わりで保育ができ、一人ひとりに目を向け、互いの刺激となり成長した。 ・発達に合った玩具を揃え、十分に遊びこむ姿が見られた。 ・体験を多く取り入れることで、子どもがいきいきと活動していた。 ・月齢差や個人差に配慮し、臨機応変に対応するために、職員同士のコミュニケーションがより必要となった。
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で！」の気持ちを大切に、様々なことに挑戦し、友達と関わったり、体を動かしたりする楽しさを味わう。 ・色々な経験を通して言語活動や表現力を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が身につけられるように、適切な援助を行い子ども達が意欲的に生活できるようにした。 ・子どもの興味を引き出し、意欲的に活動できるような環境づくり、保育計画を行った。 ・療育との連携、保護者面談を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に配慮して、無理のない目標を設定し、楽しみながら生活習慣が身につけていた。 ・様々な体験活動を取り入れ、子どもたちの好奇心や探究心を育てた。 ・保護者の気持ちに寄り添った、日頃からの連携を大切にしていた。
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの要求を大切にしながら基本的な生活習慣の自立を図り、集団生活への適応を推進し、生活経験の拡大を図る。 ・言葉の獲得を通し友達との関わりを深め、ごっこ遊びや、外遊びを十分にし、体を動かす楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性や姿を大切に育てる保育を行った。支援が必要な子どもについて園全体でサポートした。 ・運動遊びやごっこ遊びを通して、友だちとのかかわりを多く持てるようにした。遊びの中で、必要な体の機能の発達や社会のルール等を学べる工夫をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達が気になる子どもについて、職員間で情報を共有し、家庭や療育機関とも連携して、対応した。 ・保護者面談を行い、子育ての不安感に寄り添い、信頼関係を築いた。 ・子どもたちの主体性を大切に育てる保育を心掛け、興味を引き出していた。

4 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な自発活動の場を与え、成就の喜びを持たせ良いこと、悪いことを判断して行動する。 ・友達関係を深める中、相手の主張を聞くことで思いやりを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の気持ちを引き出し、表現できるように一人ひとりと丁寧に関わった。 ・療育施設との連携、担任同士の連携を大切にし、共通理解が図れるようにした。 ・異年齢のかかわりを通して、年少児へ思いやりの気持ちを持ち、年長児を真似して学ぶ体験ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や発達に沿った活動ができるように、様々な体験ができるよう楽しめる保育計画をした。 ・発表会や運動会等の行事で個々の良さが発揮されるよう、子どもたちの意見を大切にしていた。 ・子どもたちが自分の気持ちと言えるように、安心できる雰囲気を作り、丁寧に関わっていた。
5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・年長になったことを喜び自覚すると共に、就学への期待を持つ。 ・異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合い、仲間に認められる事によって自己発揮する ・友達と共通の目的に向かって、さまざまな行事や活動に意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心を引き出し、自分たちで考え工夫して遊べるようにした。話し合い活動を取り入れ、子どもたちの意見を取り上げるようにした。 ・クッキングや栽培、収穫など体験活動を多く取り入れた。 ・運動遊びを積極的にを行い、戸外でのびのびと遊ぶ時間を意識的に増やした。 ・自主的な遊びを中心に、盛り上がり遊び込めるように、担任は環境を整えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や掲示等で自然と関心が向くような環境づくりをした。子どもの言葉を拾い上げ、保育に反映できるようにすることで、遊びが展開していった。 ・行事に向けて、導入をしっかりと興味を引き出したり、子どもたちと話し合いながら進めたりすることで、主体的に参加することができていた。 ・一人ひとりの発達をよく理解し、個性と見なし、就学までの目標を明確に持ち、就学相談等を行い、無理のないようにした。

(3) 給食事業

主な計画	実践	反省・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・献立の立案 ・子どもの栄養状態の把握 ・給食検討会 ・食事調査の実施 ・食育の年間計画の立案 ・アレルギー除去食の提供 ・園内の畑やプランターで野菜の栽培 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理や行事食、旬の食材を組み入れ、食の伝統文化や四季の味を知らせる。 ・食事の摂取状況や活動状況、身長や体重などの発育状況の把握を行った。 ・毎月1回保育士と意見を出し合い、給食に反映させた。子どもたちの意見も取り入れた。 ・家庭での食生活の調査をし、家庭と園との連携を図ることにより、その後の献立、栄養指導につなげた。 ・食事のマナーを知らせると共に、楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食べる喜びを味わう。 ・保護者との連携をとり、アレルギー除去食の提供を行い、調理の際には事故のないよう十分配慮し、保育者と連携を十分にとり対応した。 ・園内に畑を整備し、野菜の栽培を、生長観察、収穫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産物を活かした料理や旬の食材を知り、郷土料理や季節感を味わうことができた。 ・現場の率直な意見を聞き、献立作成に生かした。給食担当職員と園児の交流を行い、子どもの実態を知り、親しみを持つことができた。 ・個々の発育曲線グラフを作成し、発育の状況を把握し、保護者にも伝え喜ばれた。 ・アレルギーの対応は保護者や医療機関との綿密な連携が必要である。また、誤配食を防止するため、トレーの色や表示、職員同士の確認を徹底した。 ・大きい組の園児は、保育士と献立を確認しながら、献立ボードでの三つの栄養素の確認をし、栄養に興味をもつことができた。 ・身近な野菜を栽培し、収穫することで食材や調理にも興味を持ち、感謝して食べることにもつながった。

(4) 地域交流事業

事業名	実践	反省・課題
・世代間交流事業	・「高麗町敬老会」に参加	コロナの影響でしばらく中止していた高麗町敬老会が今年から再開し、年長児が参加して舞台発表を行った。子どもたちの姿に高麗町の方々が喜んで下さり、子ども達も日頃の感謝を伝えることができた。慈愛の郷や架け橋との交流は、感染予防の為実施することが出来なかったもので、今後は交流の仕方を工夫していきたい。
・異年齢児交流事業	・卒園児との交流 (2回)	夏に小学1年生、冬に小学4年生の卒園児を対象に同窓会を行った。在園児と一緒に遊んだり、一緒に食事をしたりする時間もつくり、とても良い交流の時間となった。
・保育実習 ・職場体験学習 ・ボランティア ・福祉・保育体験学習	・鹿児島中央看護専門学校 ・鹿児島医療技術専門学校 ・鹿児島女子短期大学 ・久木田学園看護専門学校 ・鹿児島純心短期大学 ・平成音楽大学	・実習生の指導を通して、職員の指導能力や専門職としての自覚が向上すると思われた。 ・多くの人とかかわることで、子どもたちも成長する機会があった。

(5) 幼児保育相談事業 臨床心理士 大坪恵美子先生 (年4回)

内 容	反省・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の行動観察と気になる子どもへの具体的な対応について ・保育内容や方法についての指導 ・担任保育士とのカンファレンス ・保護者との面談の進め方について ・就学時相談について ・療育等への連携について ・保護者面談 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気になる行動について、事前に連絡して、相談することでより詳しく助言してもらうことができた。また、日頃の姿を心理士と一緒に観察することで、考えられる原因や、違う面から見た理解もできた。 ・保育や保護者との相談の中での困り感を相談することで、保育者自身の悩みも軽減することができた。 ・専門機関への連携や、具体的な進め方もアドバイスしてもらい療育等に通所することができた。 ・対象児が多く、限られた時間内で相談することが難しかったが、相談を重ねるごとに、保育士の知識や専門性は高まったと思われる。 ・子育てに不安や悩みを強く持つ保護者に対して、直接アドバイスしてもらう機会を設け、安心してもらう事ができた。また、職員が面談する際に事前に相談し、適切な助言をもらうことができた。職員が保護者と面談するうえで、自信を付け、スキルが上がったと思う。

(6) 実習受け入れ

学校名	実習期間	日数	人数	目的
鹿児島中央看護専門学校	R5 6/26～9/21	各4日間 (合計19日)	19名	小児看護学実習
鹿児島医療技術専門学校	R5 10/23～10/26	4日間	5名	小児看護学実習
久木田学園看護専門学校	R6 1/23～1/26	4日間	4名	小児看護学実習
久木田学園看護専門学校	R6 1/30～2/2	4日間	5名	小児看護学実習

鹿児島女子短期大学	R6 2/15～2/29	11日間	1名	保育実習
鹿児島純心女子短期大学	R6 2/7～2/20	11日間	1名	保育実習
平成音楽大学	R5 8/14～8/25	10日間	1名	保育実習

3. 相談・苦情

計画（対応策）	内容	対応・反省
<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決責任者、苦情受付担当者、および第三者委員を設置し、苦情解決の体制を整えた。又、苦情申し出窓口の設置について、年度初めに保護者に周知する。 ・苦情の申し出でなくとも、園の運営に関しての要望や苦情を受け付け、改善すべきことは改善し、キッズンリー等を通して公表し、園運営に生かしていくよう努める。 ・日頃の保護者とのコミュニケーションを大切にし、相互理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育時に引率する保育士の数を増やして欲しい。 ・子ども同士の関わりの中で怪我をした場合は双方の親に伝えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育時の職員配置や配慮事項について職員会で話し合う。子どもたちの年齢や人数、行き先等に応じて、適切な職員配置を行うことを伝える。 ・園で起きた怪我は園の責任であることを伝えた上で、今後は双方の保護者へ状況説明を行う旨を伝える。

4. 防災訓練

日時	種別	参加人員	内容
4月14日（金）	災害時の対応について	各クラスで実施	災害時の対応についての話し合い、避難経路確認、消火訓練
5月12日（金） 13:45	火災（慈愛の郷との合同訓練）	園児 68名 職員 20名	避難、消火訓練
6月29日（金） 10:00	火災（消防立ち合い訓練）	園児 69名 職員 19名	通報、避難、消火訓練
7月10日（月） 18:35	地震（延長保育）	園児 3名 職員 3名	避難、消火訓練、防災頭巾
8月26日（土） 10:05	台風・水害	園児 32名 職員 16名	避難、消火訓練
9月21日（木） 18:18	火災（延長保育）	園児 11名 職員 2名	避難、消火訓練
10月16日（月） 18:45	地震	園児 3名 職員 2名	避難、消火訓練、防災ずきん
11月10日（金） 10:15	火災（慈愛の郷合同訓練）消防	園児 74名 職員 21名	避難、消火訓練

	署立ち合い		
12月7日(木) 18:33	地震・津波	園児 67名 職員 18名	避難、消火訓練、防災ずきん
1月29日(月) 10:00	地震	園児 73名 職員 19名	避難、消火訓練、防災ずきん
2月13日(月) 14:50	地震	園児 73名 職員 17名	避難 消火訓練 防災ずきん
3月28日(木) 9:50	火災	園児 74名 職員 16名	避難 消火訓練

5. 年間行事報告及び研修報告

月	行 事	職員研修会・会議等
4	入園式	園内自主研修の計画、立案 マネジメント研修会
5	こどもの日・母の日・春の遠足 健康診断・内科検診 慈愛の郷との合同訓練 甲南中学校職場体験（未実施）	市保協総会・全体研修会 保育の計画と実践研修 園内研修（普通救命講習会、インクルーシブ保育、 食事の事故防止）
6	歯科検診 保育参観 消防署立ち合い避難訓練	子育て支援・保護者支援研修会 保育実践研修 幼保小ブロック研修・中央ブロック研修
7	七夕まつり・プールあそび・保育参観 夏まつり・おみせやさんごっこ 人形劇 ・令和4年度卒園生同窓会	保健衛生安全対策研修会（キャリアアップ） 園の保護者への子育て支援 新任園長セミナー
8	夏まつり ・幼児保育相談 お泊り保育（5歳児） 就学前教育相談	保護者支援・子育て支援研修（キャリアアップ） 保育実践研修
9	十五夜行事・育児講座 敬老会	障害児保育研修会（キャリアアップ） 役職者研修
10	運動会（異年齢児・地域交流） 高麗町敬老会参加（5歳児） 荒田小校区文化祭（5歳児） 交通安全教室・絵画教室	役職者研修・保育実践研修 園内研修（人権保育、睡眠セミナー、健やかな体 と心を育む子育て）
11	秋の遠足・健康診断・勤労感謝訪問 子どもの食事のアンケート調査	人権に関する研修・幼児教育研修会 乳児保育研修会（新入職員）

	幼児教育相談・避難訓練 就学雨相談	食育・アレルギー対応研修会（キャリアアップ） 慈愛会50周年記念 合同研究発表会
12	きずなっこ発表会・クリスマス会 もちつき大会	保育所長研修
1	七草・たこあげ大会 ・防犯訓練 久木田学園ミカン狩り 学校ごっこ ・保育参観	市保協全体研修会 保育実践研修 学校ごっこ研修
2	節分・写真撮影 セイカ食品劇場 保育参観 ・消防署立ち合い消防訓練 幼児保育相談 ・入園説明会	保護者支援(面談) 保育カウンセラー養成講座(広島県) 障害児保育研修会(キャリアアップ)
3	ひなまつり会・お別れ会・お別れ遠足 卒園式	小学校との連携・接続 新年度準備会議
	◎ 誕生会、避難訓練は毎月実施 ◎ 異年齢児交流事業、世代間交流事業 ◎ 給食試食会 ◎ 養成校・看護学校実習受け入れ ◎ 小学生・中学生・高校生体験学習受け入れ ◎ 幼児保育相談(臨床心理士)	◎ 月例会議 園内研修・職員会 クラス会議 危機管理会議 給食検討会 ケース会議

6. 施設管理

(1) 園舎内外の設備点検

- ・ 設備の消耗による故障や修理に対応した。

(2) 防災・防犯・安全管理

- ・ 避難訓練・消火訓練
毎月1回（年2回は中央分遣隊指導による避難訓練）
- ・ 防犯訓練（市安心安全課指導員による防犯教室実施）
（中央警察署生活安全課による不審者訓練）年1回
- ・ 防災設備の点検委託
年2回（内、届け出1回）
- ・ 非常食糧の備蓄
（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）
- ・ 安全チェックリストによる点検を、毎月当番が行った。
- ・ 園児賠償、傷害保険加入

(3) 物的環境

- ・ パソコン購入 1台

7. 職員管理等

(1) 入職者

正規職員 3 名（保育士 2 名 栄養士 1 名）

(2) 退職者

正規職員 1 名（栄養士 1 名）

常勤職員 3 名（園長 保育士 2 名）

非常勤職員 2 名（保育士 2 名）

(3) 産休・育休職員

正規職員 1 名（保育士 1 名）

(4) 職員体制（令和 6 年 3 月 31 日現在）

職種区分	人数	正規職員	常勤職員	非常勤職員	
園長	1 名		1		
主任保育士	1 名	1			
保育士	18 名	10	5	3	うち 1 名育児休暇中
栄養士	1 名	1			
調理員	3 名			3	
事務員	1 名	1			
施設係	1 名			1	
計	26 名	13	6	7	